

(様式1)

令和6年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 062	提案機関名 公益財団法人 相模湾水産振興事業団
要望問題名 蓄養型定置網開発研究について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 ○ 相模湾の漁獲物の約7割を占め、相模湾漁業の基幹漁業となっている定置網漁業は、近年、魚価の下落により、経営が圧迫されている。 ○ そのため、魚価安定対策として、漁獲物を市場へ安定的に供給したり、市場の価格動向を見て出荷調整したり、また、魚の品質を管理する等の目的から蓄養出荷が求められている。 ○ このようなことから、地域の漁業拠点となっている「小田原漁港」では、本格的な蓄養水面の建設が進んでおり、平成24年度からは、蓄養試験の実施されている。 ○ そこで、この蓄養水面を活用した、「漁獲物の安定出荷」をより円滑に実施するため、魚の供給元である各地先の定置網に生簀網等を備え、一時的に魚をストックし、これを計画的に蓄養生簀に供給する「安定出荷型定置網」の開発研究を要望します。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	水産技術センター	担当部所	相模湾試験場
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 <input checked="" type="checkbox"/> ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 定置網の台風等の低気圧による被害の軽減手法の開発			
対応の内容等 生簀網等を備えた定置網は、小田原地先の定置網で既に導入されております。また、蓄養水面を用いた魚価の調整については、小田原新港西側に整備された蓄養水面で検証されており、イシダイやワカシで魚価の調整が可能であることがわかっています。今後も、蓄養水面の利用について漁業者から要望のある場合には、定置網に関する漁獲量や魚価に関する情報から蓄養に適切な時期などの情報も提供します。 また、生簀網等を備えた定置網についての漁業関係者から新たに要望があった場合には、近年の台風による急潮などの影響を踏まえた情報提供や指導を行ってまいります。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			